

〈様式2〉

令和5年度 体力向上における各校の成果(小学校)

越前町

教育委員会

No	学校名		成 果
1	朝日	小学校	75%以上の児童が、学校評価で「正しい姿勢を意識して生活できた」と肯定的な回答をした。高学年のアンケートでは、70%以上の児童が「体育では、楽しく体を動かすことができた」と肯定的な回答をした。
2	常磐	小学校	特に持久走となわとび活動に積極的に取り組ませた。 持久走は1回目の記録をもとに、自己目標を立てさせた。月1回の記録測定をすることで、児童は目標達成しようとする意欲的に取り組み、多くの児童が自己目標を達成した。また、走った回数分カードにシールを貼ることで、目標回数を達成しようとする取り組みができた。 なわとびでは、毎回の記録を取り、自分の記録の伸びを確認し、意欲的に取り組むことができた。なわとび大会では自己新記録をだしていた。
3	糸生	小学校	学校アンケートでの「体育の授業や学校生活で、体力がついたり、技が向上しましたか。」という問いに対する肯定的な回答が91%だった。授業やアンケートの結果から、自身の体力について理解し、向上をめざしチャレンジする子の育成の成果が出ているように思われる。
4	宮崎	小学校	4～6年生対象の体力テストのアンケート結果では、運動することに対して70%以上の児童が肯定的に捉えていた。能力にかかわらず、多くの児童が自分の目標に向かって前向きに運動に取り組んでいることが分かった。委員会主体で昼休みに行った取り組みでは、全校児童のほとんどが参加していた。教員側が「させる」のではなく、児童発信の取り組みの方が、その関心や効果が大きいと考えられる。
5	四ヶ浦	小学校	「業間体育や体育的行事で目的を持って取り組めたか。」というアンケートに対して、7月は91%、12月は99%の児童が「取り組めた」もしくは「どちらかというに取り組めた」と回答した。
6	城崎	小学校	体育的行事や業間運動では、種目を考えたり、振り返りをしたりする活動を児童が企画・運営することで、進んで体を動かそうとする姿がみられた。学校保健委員会では、アンケート調査や学校歯科医へのインタビュー内容を踏まえて、普段の生活を親子で振り返り、歯の健康を守る意識を高めることができた。
7	織田	小学校	今年度、業間マラソンを廃止して「おたっ子逃走中」のように運動に親しめる環境づくりに努めた。1000m走大会では、78%の児童(87人中68人)が昨年よりタイムを向上させることができた。完走証を渡す等の工夫を凝らすことで、昨年より96秒もタイムを向上させた児童がいた。
8	萩野	小学校	児童の学校評価アンケートでは、90%以上の児童が「力いっぱい運動に取り組んだ」と回答している。これは、個人や同学年間、異学年間で設定したためあてに向かって協力し合えるような授業づくりや行事を意識した成果であると考えられる。